

〒863-0002 天草市本渡町本戸馬場1706-3  
電話番号 0969-22-3668 FAX番号 0969-24-4393  
電子メールアドレス amakusakaho@pref.kumamoto.lg.jp



## 牛アルボウイルス(異常産関連ウイルス)について

アルボウイルスとは、蚊やヌカカなどの吸血昆虫を介して伝播されるウイルスのことで、妊娠牛が感染すると体型異常を伴う異常産等を引き起こします。サーベイランスの一環として、全国的に牛アルボウイルスの動向を調査しており、熊本県でも発生を予察するため抗体保有状況を調査しています。

天草家保管内では、3戸10頭の子牛について、6、8、9、11月の計4回、延べ40頭、熊本県全体では、約15戸、延べ200頭について検査を実施し、平成28年度の最終的な結果が出ましたので、その成績をご紹介します。

### ●検査項目

牛流行熱、アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症、イバラキ病、ピートンウイルス感染症

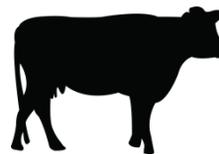
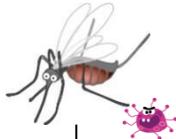
### ●検査成績

熊本県内の成績では、**イバラキ病**が中央家保管内と城北家保管内の牛が9月に、抗体陽転となっていることから、**野外感染によるものと考えられました**。

天草地域でもイバラキ病の抗体陽性が確認されましたが、この抗体陽性の牛は黒毛和種の子牛で、子牛セリ上場のためのイバラキ病ワクチンを接種しているためと考えられました。

しかし九州各地でもイバラキ病の抗体陽転の牛が確認されていることから、平成28年は広範囲にわたり、イバラキウイルスの野外感染があったものと推察されました。

繁殖牛飼養農家においてはヌカカ対策はもちろん、母牛へ異常産3種及び牛流行熱・イバラキ病混合不活化ワクチンを接種し、農場をはじめ地域全体で抗体保有率を高めて、ウイルスの侵入や増殖を抑えていくことが最も重要(効果的)ですので、皆様のご協力をお願いします。



### イバラキ病とは？

本病は、夏の終わりから秋期に発生し、**イバラキウイルス(血清型2型)**が媒介昆虫(ヌカカ)により伝播する**アルボウイルス感染症**である。牛から牛への同居(接触)感染はない。

軽度の発熱とともに、食欲不振、流涙、結膜充血・浮腫、泡沫性流涎、鼻腔・口腔粘膜の充血・鬱血・潰瘍、蹄冠部の腫脹・潰瘍、跛行等がみられる。その後、発症牛の約5%に食道麻痺・咽喉頭麻痺・舌麻痺による嚥下障害が発生するといわれている。

生ワクチンあるいは不活化ワクチンの接種(ウイルス流行期前に完了する)により予防し、嚥下障害発症牛に対しては、補液および誤嚥性肺炎の防止のための対症療法を行う。

### 通報

家畜の異常を発見された場合はご連絡ください。  
天草家畜保健衛生所 電話番号0969-22-3668

毎月20日は「くまもと家畜防疫の日」



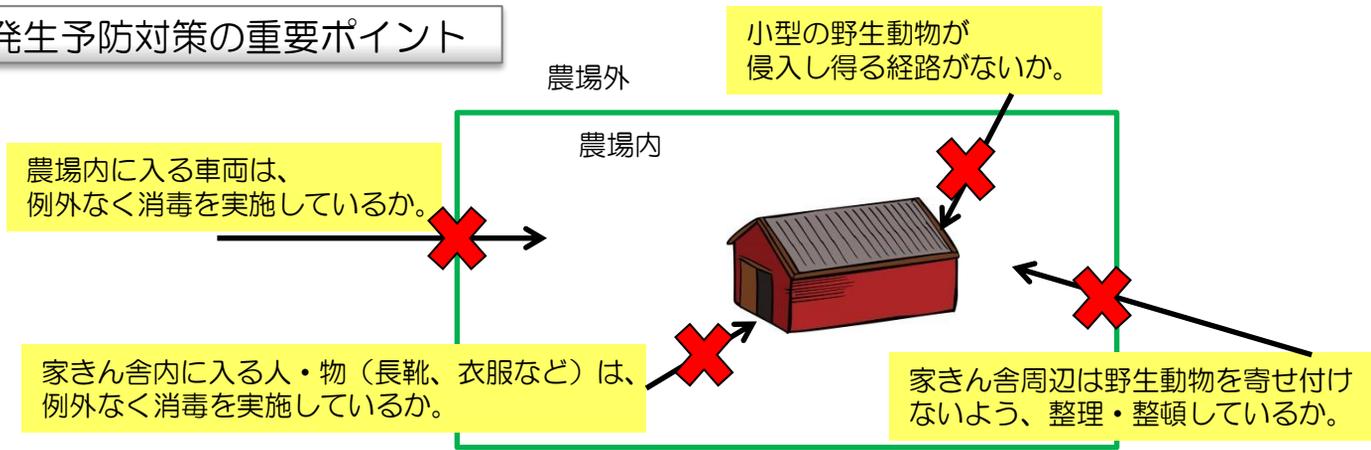
# 高病原性鳥インフルエンザの発生予防対策の強化及び徹底について

農林水産省で1月末、昨年11月から本年1月にかけて発生した高病原性鳥インフルエンザ（以下「本病」という）の事例について、現地調査、分離されたウイルスの特徴等に基づき、感染経路の究明に向けた検討及び本病の発生予防対策の強化・徹底について、疫学調査チームによる検討会が開催されました。

家畜保健衛生所では、本病の発生確認に伴い、家きん飼養者に対する発生予防対策の助言・指導、早期発見及び早期通報の徹底、さらには、万一発生が確認された場合の迅速かつ的確な初動対応の徹底をお願いしてきてきたところです。

全国的に野鳥等でも本病のウイルスが確認されており、いづれどこにおいても、本病が発生するおそれがあることから、家きん飼養者に対し、引き続き、日頃から異状の早期発見・早期通報も含めた厳重な警戒をご指導ください。

## 発生予防対策の重要ポイント



## 近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	発生地	発生日	畜種	型
口蹄疫	中国	11月22日、1月5日	牛/羊/山羊/豚	O型
	ロシア	11月22日、27日、12月14日	牛/羊/山羊/豚	O型
高病原性 鳥インフルエンザ	韓国	11月16日～1月12日	家きん	H5N6
	中国	1月1日	コクチョウ	H5N8
		1月11日	がちょう	H5N6
	台湾	12月17日～1月1日	地鶏	H5N8
		12月29日	あひる	H5N2
		1月5日	地鶏	H5N2
	ロシア	12月26日、27日	家きん	H5
		1月1日、5日	コブハクチョウ	H5
		1月3日	コブハクチョウ/シュバシコウ/ ヨウム/フクロウ	H5
		1月8日	鶏	H5